ふかまちのまど

第八〇号　二〇〇一年一月一日
発行元　深町　町内会連合会
連絡所　〒六三―三八八七

新世紀の課題を考える

深町町内会連合会会長　髙崎出旭

新年あけましておめでとうございます。

平成一三年（二〇〇一年）をすがすがしくお迎えのことと、こころからお慶びを申しあげますとともに、平素の連合会活動に対するご理解とご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

今日は、新ミレニアム元年に当たり、二一世紀の課題を考えてみました。

▼IT革命の世紀

声高にIT革命が叫ばれている中、二一世紀の扉が開きました。IT革命は第二の産業革命とも言われます。経済や社会の構造の変化の大きさや、インパクトの強さが似ているということでしょうか。何れにしても、このグローバルな流れは止まらないのだから、時代にとり残されないためには、憶劫でも能力を身に着けたい。しかし、革命の完成は、小学校から教えられた子どもが、大人になってからでよいのではないでしょうか。

▼贖罪の世紀

二〇世紀の成果が人間の生活に大きく寄与した反面、自然破壊・環境汚染という深刻な負の遺産を副産として新千年紀へ繰り越しました。一説によると、註①（現在の環境汚染の水準で、IQ《知能指数》の値が五ポイント落ちるという。これはIQ百三十以上の高水準の人口が、二百三十万人から九十九万人に激減し、社会は将来、一流の医師・科学者・大学教授・発明家・作家になれる有能な人材の半数以上を失う計算になる）という。（野村進「脳内探検」―現代二〇〇〇新年号）

もしそうだとしたら、これは大変なことであります。土地や川や池や海の環境ホルモンは、私たちが出したことを自覚せねばなりません。

二〇世紀に犯した罪は、今世紀中には、きっちりと贖罪する責任があります。今こそ、経済至上主義で走り抜いた二〇世紀を反省し、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から、持続可能な社会への舵を切らねば、人類は自から創りだした内分泌撹乱物質（環境ホルモン）によって、知らぬ間に人類の未来を奪い去られてしまうことになります。▲▲

ふかまちの自然への想い（3）

小林　龍一郎

●初冬の里山―イノシシ

九時「トラ」と「シシ」は衝突事故をおこすところだった。度肝を抜かれた私の目には、イノシシと軽トラの近さ30センチ。確かにイノシシの白い目玉がぎょりと私の方を見た。その目玉は「しっかり運転しろ」とばかりに、悠然としたものだった。足並みはとんとんという並足で、出会い頭も、右の丘の方への去っていく姿も速さに変化はなかった。

場所は大池のところ、前田さん宅の前を大池側の坂から現れ、村上さん宅の東側県道北側を丘に登っていく小さな坂の間、その県道でのできごと。

私は軽トラを急停車して、ほっと大きな息を吐いた。ハンドルの下ぐらいに背中があるほどの大きなやつであった。心は「ぶっつけて、イノシシ鍋にしたかったな。子どもたちに話したら、喜んでくれたのに。」また反面「ぶっつからなくてよかった。」軽トラはやられてしまい、ハンドルを取られて壁に衝突、救急車で病院へ運ばれたかも。」しばらく県道上で深呼吸、対向車線に車が来たので振り返りながらアクセルを踏み込んだ。

それまで私は、イノシシが県道をさかいに南北で住み分けているものとばかり思いこんでいた。近年、過去経験したことのないほど、イノシシの被害が拡大している。三原の市街地近くでも出没したり、人の指をかみ切ったりするほどの大暴れである。深小学校の運動場にも、夜な夜な現れ、子どもをまねてはしりっこをしているらしい。足跡をはっきり残している。昼間に山の上から子どもの様子をしっかりと見ているのかもしれない。

イノシシ

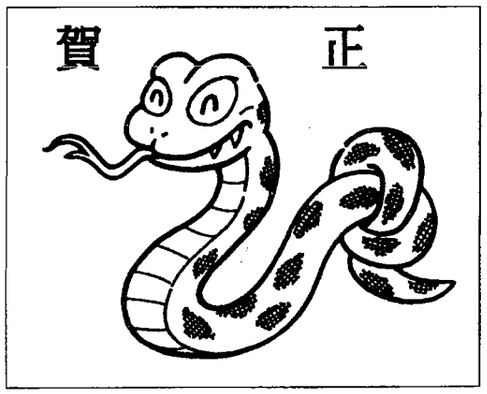
裏山の東、村上山の頂上には、雑木林の中に大きなぬた場がある。これは体についているダニなどの寄生虫をとるためである。このことは樹木や岩などで体をこすりつける習性があることの理由でもある。

土を掘るときには堅い鼻を押しつけ、首をふりながら掘る。学校の裏山にある岡本池の周辺には、ミミズなどを食べるために、掘った痕跡が多く残っている。

「うりぼう」をつれた母イノシシに出会うと人間にはとても危険である。うりぼうが安全圏に逃げきるまで、母イノシシは人間を威嚇しながら対峙し、人間の目を自分に引こうと近くを動き回る。「このとき人間は背中を見せて逃げてはいけない。相手の攻撃本能を刺激することになる。うりぼうが逃げきるとタイミングを見計らって悠々と去っていく。」と深町の人から聞いた。

子どもを思う心は、人間もイノシシも少しも変わることはない。下組から久山田に越す峠を下るときの万里の長城のようなトタン囲いを見ながら、何とか彼らと共存できないかと心が痛む。▲▲

次回は「タヌキ」



情報社会にいきる

昨年冬至を前にした一二月、持て余す時間を使って全国紙二新聞の商品広告スペースを調べてみました。

調査方法は、新聞縦方向五一糎に対し何糎の広告があるかを計って、その割合を出す方法を使いました。（面ぶ広告は除いています。）

A一般紙　四〇・五％
B経済紙　四九・八％

でした。（テレビや他社はどうなんでしょうか）

新聞経営の柱は、購読料と広告収入と言われています。経営の中立を計るために必要な財源措置、と、聞いています。

商品情報に限らず、様々な情報が報じられる現代ですが、我々受ける側が「情報を読む目」を持たなければ悲劇です。

一例を上げれば、友部現国会議員が深く関わった「オレンジ共済」。高利回りを約束し、集めた六億円余りがだまし取られた事件ですが、情報の真偽を確かめる自己責任について考えさせられます。儲け話は他人に勧めず自分で実行したら：。（編集子）

謹んでお悔み申し上げます

★梶谷幸佑様　六四歳　一一日
★岡田盛光様　八九歳　一七日
（昨年一年間に亡くなられた方は七人でした。）

町内各種団体　一月行事予定

◆小学校・幼
▼始業式――――九日
▼体位測定（幼）――――一〇日
▼身体検査――――一一・一二日
▼新春ふれあい広場（小・幼）二二日
▼参観日（幼）――――二六日
▼お楽しみ会（幼）――――三一日

◆町内会
▼トンド祭り（下）――――一三日

◆女性会
▼県道清掃奉仕作業――期日未定
▼手芸教室（午前九時町民会館）――一五日
▼3B体操（午後八時　同会館）第二・四土曜

◆消防団
▼出初練習――――一日
▼出初式――――一日

展望席

この欄は、深町の団体行事予定を載せてまいりましたが、今後は任意グループの予定も入れたいと思っています。

趣味の会、同好会等の催しもお知らせください。行事結果も知りたい一つです。

昨年に限られたことではないが、新聞を初め、マスコミで伝えられる暗い情報がどうしてこうも多いのだろうか。お金にまつわる裏社会構造の陰湿さは「学」の世界にまで及んだ。戦後日本が平和で、緊張感の無さが堕落を生んだ。と、思うのは筆者の早計だろうか。▼報道される夥しい事件の中で、女性・老人・こどもという弱い立場の人を巻き込んだ犯罪は、言葉には言い表わせない憤りを覚える。中でも、目を背けたくなる事件は昨年十一月発覚した義父による六歳未満の兄妹二人を虐待死させた事件。注意を聞かないからと殴ったり、水風呂にいれて死に至らしめた。「凄惨」以外の何者でもない。▼こんな暗いニュースの中で、昨年深町では小学校を巡る明るい話題が幾つかあり心が和む。極最近の昨年末の例でも、「昔のあそび」企画では、尚寿会の皆さんが全面協力。学習発表会で行われた「稚子峠の赤子石」の下見に訪れる児童のために雑草を刈りとってくださった河原さん。懐中電灯片手に事前調査に行かれた担任教師。▼如水館高校生による県道55号の清掃活動（これは、女性会も行なっています）。又、深町の生徒が通う第二中学校でも「通学路の清掃」作業が行なわれたと、二中だよりで報じられた。百を語るより一つの実行を。昨年の明るい深町の話題の基本にあるのは、思いやりある行動力。大切にしたい。

深町歴史散策（3）

深小学校跡

（第二番目の学校）

高崎　壽郎

深郷土誌（昭和三八年【一九六三】発行）に、「明治九年（一八七六）三月、深村六八八番字上成瀬敷地の内二畝歩を以て、深村小学校敷地として校舎を建築した。

この敷地は、明治十九年（一八八六）三月まで、向う十ケ年間無代償で、地主松葉赫郎氏が貸与せられたものである」、と記されている。

松葉氏は当時の戸長。

場所は、現在の林美樹雄氏宅地内で、過日林先生より位置を確認させていただいた。敷地が二畝（二a）で広くはないが、金剛寺の喬盈舎に次いで深では二番目の小学校であった。

子ども達は新築されたこの学校に、明治九年（一八七六）から明治二〇年（一八八七）まで通った。

明治十九年に学校令が出るまでの修業年数は、三年から四年で、それも義務的なものではなかった。

児童は男子が多く、「女子には学問はいらぬ」と言って通学させてもらえない子もいた。又、家庭の都合でやめる子もしばしばあった。

当時は授業料（月謝）を収めていたというから、子ども達の勉強態度は真剣だったにちがいない。

通学した子どもの数は記録に残っていないのは残念だが、学校ではどのような教育を受けていたのだろうか。

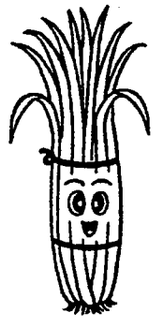
一年から四年までいっしょの一教室一教師で、先生のご苦労はさぞ大変だったと推察できる。

下組の子どもは、中世の山陽道の稚子峠を越えて通学していたと思われるが、これが意外に近道だった。

今、深小学校玄関にある

広島縣御調郡第四二小学校區
公立　深小學校

は、現在残っている校名札で、故成末豊氏が寄贈された貴重なもの。達筆である。▲▲



サンライズ大池をたずねて

深小　春田美恵子

新春のお慶びを申し上げます。昨年はいろいろとお世話になり、誠にありがとうございました。本年もなにとぞよろしくお願いいたします。

この二学期に初めてサンライズ大池を深小学校の三年生から六年生の子どもたちがたずね、交流をしました。

おじいさんやおばあさんの前で緊張しながら、歌や演奏をしたり、紙風船で遊んだりしました。握手をしたりしました。

子どもたちは行く前は、「何を話したらいいのかな」と悩んでいたようでしたが、おじいさんやおばあさんのやさしい表情に思わず、握手の手がで、「こんにちは、元気でね。」と言葉が出るようでした。

「しっかり勉強するんよ。」と励された子どももいました。

サンライズ大池を訪問し、子どもたちは「行ってよかった。うれしかった。」という感想を持っていました。自分たちの訪問を本当に喜んでくれる方々に出合い、ふれあいの温かさと、自分たちのやったことがこんなに人を喜ばすことができるという喜びを味合わうことができました。学校の中だけでは経験することのできない貴重な体験をさせていただきました。

ありがとうございました。▲▲

ボクの集団疎開の思い出

（元）大阪市立海老江東国民学校
2ねん　ニシダカツヒコ

終戦のころ(1)

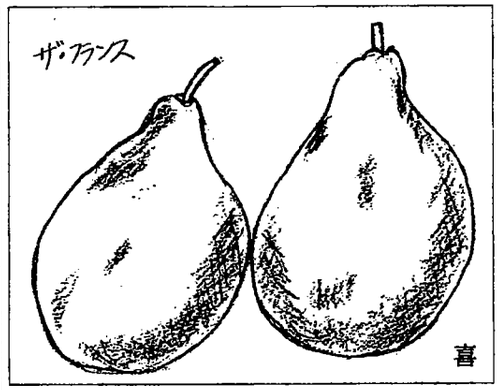
山合いの学校の青い空に、電波妨害の金属フィルムがキラキラ舞った。

終戦の日の玉音放送は雑音も加り子供には理解できなかった。

戦争のあと、村の稲刈りを手伝った。手に余る鎌を稲株の根っこにゴシゴシあてた感触、腰を曲げ汗を流す村人の作業のご苦労、稲こきの農具、籾と風で飛ばす作業など、秋の景色と、ゆったりした気持ちの良い充実した時間として記憶している。（次号につづく）

深町の人口

年	月末	人数
94	4	900
94	12	922
95	12	983
96	12	967
97	12	994
98	12	1,008
99	12	1,019
00	1	1,060
00	11	1,087



ふるさと賛歌

石井良雄

石井さんは、目出度く米寿（八十八歳の祝い）を迎えられたお年寄りです。

ふるさと賛歌は、幼い日から今日まで、健やかな成長を育んでくれた「ふるさと」に、感謝と畏敬の気持ちをこめて作詞されたものです。

一、狭い盆地の真中に
大きな山が　どっかりと
座ってござる　不思議さよ
山は緑に　水清く
青い空には　白い雲
深い谷奥　深の里
我がなつかしい故里よ

二、谷という谷　真清水の
流れて寄って　川となり
南へ西へ　又南
急に曲って　東へと
曲がりくねって　流れゆく
母なる川よ　藤井川
初夏には蛍　乱舞する
次号に続く

如水館女子健闘及ばず

第十二回全国女子駅伝競走大会が師走の二十四日、京都市で開催された。

県代表として臨んだ如水館は健闘空しく入賞を逸した。

次回を目標に更なる精進を祈りたい。

炊事婦さん募集

＝サンライズ大池

・募集人員は若干名です
・年齢は特に問いません
・勤務時間は
前番　午前六時三〇―午後二時〇〇
後番　午後二時〇〇―午後七時三〇
・詳しいことは☎六〇―〇五一〇　若林まで。

深小だより

恒例の"深町総ぐるみ"で取り組んでおります「新春ふれあい広場」を来たる一月二十一日（日）、午前八時三十分より、深小学校運動場及び体育館で開催いたします。

大きなとんどを囲んでおもちつきを始め、PTAのバザー、フランクフルトやたこやき、ポップコーン等の販売もいたします。楽しい催物も予定しています。どなたでも参加できますので、一人でも多くの方に来ていただき、会を盛り上げていただくようご案内いたします。

とんどを囲んで老若男女楽しい一時を過ごしませんか。

新春ふれあい広場のご案内

――早朝の因島公園にて――
しまなみの初日を写すミレニアム明け　麦畝

深町歴史散策 (2)

高崎　壽郎

庄屋屋敷跡

深には庄屋屋敷跡といわれるものが二カ所ある。上組の松本光明氏宅と林美樹雄氏宅である。庄屋は、平安時代荘園の事務を掌った荘司・荘官の遺称。関西では庄屋、関東では名主、北陸・東北では肝煎（入）と呼称した。

庄屋は領主に村の代表者を命じられた百姓で、本百姓の選挙や協議などで決められるが、村の旧家が世襲することが多かった。

代官の命令のもとに、庄屋は自宅を役所にして、村政関係の書類を保管し、五人（十人組）制度などを通して、農民の生活を統制した。行政の末端機関であり、村の治安、勧農、水利土木、年貢取立、祭礼などの村政全般を司どり、村外や領主との折衝にも当たった。これには、村（地）方三役の組頭、長百姓も協力した。庄屋は、領主と農民を結ぶ重要なパイプ役だった。中でも、年貢納入のために人質として庄屋が蔵屋敷に拘留されているのを、年貢完納後農民が迎えに行くこともあったという。不作・凶作の歳など庄屋の心労は一段と大きかったと思われる。

又、百姓一揆や水論（水田の旱害用水の利用をめぐる論争）や山論（山の境のもめごと）の先頭に立ったり、逆に一揆の対象になることもあった。テレビの時代劇で、代官や農民が登場して、当時の生活や社会の様子などを知らせてくれる。

庄屋は、明治四年（一八七一）の廃藩置県まで続くが、深では、明治二年、三年、四年の三年間は、何か理由があったのか毎年交代している。

明治五年（一八七二）には、名称を戸長と変えた。戸長は明治新政府の地方支配機構の末端に位置するとともに、町村共同体の代表者でもあった。

更に、明治二十一年（一八八八）町村制施行により、町長村長と改称。

尚、深の両庄屋屋敷跡には、その存在を証す墓が数多く残っている。▲▲

ボクの集団疎開の思い出

（元）大阪市立海老江東国民学校
2ねん　ニシダカツヒコ

せつない思い出④

乳（いらみ）がわいて カユくて たまりません。肌の弱いボクは、指の股や、ズボン パンツのゴム紐のあたりが赤くなり、かき過ぎて ブツブツ水ぶくれが出来、丁度トビヒの様な皮膚病（膏癬）になり、潰れると又、うつるのです。3人の児童が尾道市内の病院迄 連れて頂き、医者の冷たいピンセットで プチンプチンと潰され、硫黄軟膏と、臭い硫黄風呂で漸く治まりました。

薬で白くなった お風呂には、皆んなの最后に入らねばなりませんでした。

深町に伝わる「稚子峠の赤子石」

深小学校長　瀬畑三代子

みなさんは、「稚子峠の赤子石」をご存知ですか。

今回、深小学校四年生が、学習発表会で取り上げたのを機に訪ねてみる事ができた。この石は、数百年前、この地方が大飢饉に合った時、人々は飢えに苦しみあげくの果てに、可愛いい我が子「赤ちゃん」をこの石の辺りに捨てたといわれるもの。悲しくつらいお話が残されている。

上組、東のお堂を山手に旧街道に入ると、案外広い山道が続く。ゆるやかな坂道を十五分ぐらい登ると、右手に「深田村大字深中央」の石塚を見る事ができる。赤く色づいた柿畑が続き、時折鳥のさえずりが聞こえる。この辺りが頂上か、ここから一〇〇メートル下がった林の中、左側に大きな石がある。これが赤子石。こけを削ってみると、赤ちゃんの足そっくりの跡が三つ、四つとはっきり見える。しばし、この足跡をさすりながら、昔の人に思いを走らせ、ご苦労、生きていく厳しさを思う。こゝを通りぬけると、如水館高校裏に出るらしい。貴重な体験ができた。▲▲

奈良万葉の途にて
山の辺に歯ごたえのなき柿美味し

麦畝

みどりの少年団
苗木一五〇本植樹

十一月二十五日、沼田西の西部住宅団地で、植樹祭が行なわれ。市内唯一の「深町みどりの少年団」（代表西本龍君）参加し、山もみじ・そめいよしのなどの植樹をしました。

学習発表会

五年　小林沙央実

今日、八時に学校について、八時二〇分になって係の先生のところへいきました。八時三〇に発表会がはじまりました。私は、会場係だけど、しょうしゅうの人といっしょにいました。でも、ようちえんの歌がっそうがおわって西なが君とこうたいしました。

見ていたなかでようちえんの「ピーターパン」がかわいいと思いました。

二年の「かさこじぞう」のときに、道具をとってきたり、よういしたりしました。そして、校長先生の話のときに、空気をいれかえて、三・四年生の「リコーダー」がおわっていよいよ五年生の「王様と八人のきょうだい」のばんになりました。

よういをして、井手上君がナレーターをして、私のばんになりました。かつらをかぶって、白いズボンをはいてでました。じぶんのでばんがおわって、つぎにでばんがあるのをわすれて、白いズボンをぬいでかつらもはずしてしまいました。中重君がセリフを言って、思い出しいそいですこしぶたいのところにでてしまいました。いそいでカツラをかぶって白いズボンをはかずにいきました。はずかしかったけどがんばってやりました。

最後の場面はまあまあうまくできたかな、と思いそして、全校の歌もちゃんと歌えてよかったです。

家に帰ってみんなに「よくやったよ」と、いってもらえてうれしかったです。

深小だより

地域が学校に

いよいよ十二月になりました。風も冷たくなり、山々の紅葉も一段と美しくなりました。

さて、先月の十一日（土）に三原市子ども地域活動促進事業「教えて昔の遊び」を開催するにあたり、たくさんの地域の方々がにご支援いただきました。女性会や尚寿会の方々や高崎寿郎さんや坪見博文さん、子ども会やPTAの方々、地域の方々が先生となり、子どもたちに懐かしい遊びを教え、共に遊んでいただきました。子どもたちも「楽しかったね。」と喜んでいました。

子どもの感想より

・楽しかった。また、やりたいな　二年　小林大祐

・楽しかったです。特に紙風船がパパと音がしてうまく飛ばなかったところがおもしろかった。　四年　桃北康暉

・輪回しが楽しかった。曲がるのが難しかった。　五年　村井太

・好きな遊びで紙風船をして楽しかったです。　一年　井手上千春

天木美菜見ちゃん
最優秀賞受賞

去る十一月三日、瀬戸田町で行なわれた「シトラスパーク瀬戸田と消防自動車写生大会」で消防車を描いた深小四年、天木美菜見ちゃんが見事最優秀賞三点の一つに選ばれました。

「消防車をよく観察し、細いところまで描いた作品は見る人の心を和ませます」中国新聞十一月二十二日掲載。